

平成 23 年度 図書館情報学海外研修助成報告書

博士前期課程 1 年 山口恭平

【研修期間】平成 23 年 8 月 15 日～平成 23 年 8 月 29 日

【目的地】イギリス (ロンドン), オランダ (アムステルダム, マーストリヒト)

【主要訪問先】

イギリス (Daunt Books, Taschen London Store, London Review Books) ,

オランダ (American Book Center, Mendo, Selexyz Dominicanen)

本研修は、海外の書店におけるキュレーションの実態の調査を目的とした。

近年、キュレーションという概念が注目を集めている。キュレーションとは、「情報を特定の視座や意図を持って編集し、新たな意味や価値を持たせた上で魅力的な形で人々に提供する」と定義される。この概念は Web という情報を扱う世界だけでなく実際の物質の世界でも通用するものであり、最近では本を扱う書店でもキュレーションがおこなわれ好評を博している。本を主に扱う空間という点で図書館と近い書店でキュレーションが成功していることから、この概念は図書館および図書館情報学の分野と親和性が高い可能性があると言える。

1. Daunt Books(イギリス)

Daunt Books は、1910 年に建てられたエドワード朝時代の建物を利用した書店である。「ロンドンで最も美しい書店」「ロンドンで最も個性的な書店」としても知られており、視察した際も多くの人々が訪れていた。

この書店の特徴はその本の排架であり、一部の本棚以外は本を「内容の関係する地域／国」ごとに分けて排架をおこなっている (図 1)。そのため、例えばフランスのコーナーでは、旅行のガイドブックの横にフランス人作家の伝記が見られるなど、「気づき」「意外性」を人々に提供されているなど。実際に本棚を眺めると、見知った本が意外な場所に排架されているなど、普通の書店では味わえない面白さを感じることができた。また 1 階と 2 階の吹き抜けになっている読書スペースでは、天窓から陽光が射し込んでおり、ゆったりと快適に読書できる空間が演出されていた (図 2)。



図 1. 国/地域別の排架



図 2. 陽光が射す読書スペース

2. Mendo(オランダ)

Mendo はクリエイティブ関連書を扱う専門書店であり、グラフィックや広告、ファッションやインテリアなどの本を幅広く扱っている。

このショップのインテリアはほぼ黒一色に統一されており、それに暖色系の照明を上手く組み合わせることで本棚やテーブルの上に配置される本をより魅力的に演出している (図 3)。また、大型の写真集などが開いて置かれているテーブルの一部に赤いシートを埋め込むなど、本を読む空間としても工夫されており、視覚的に面白い本を身近に座りながら鑑賞することができるようになっている (図 4)。



図 3. Mendo の内装



図 4. 本に囲まれた読書スペース

今回の研修旅行では多くの海外の書店を回り、キュレーションの事例を調査した。その結果、空間を上手く用いたキュレーションの手法について知見を得ることができたと感じている。今回の研修で学んだ内容は、雙峰祭の学際企画『近未来書籍空間』の演出に活かし、より良い空間を創りあげたいと思う。